

日語閱讀教材之開發

—— 以『在台灣學初級日語』為例 ——

賴 錦 雀

東吳大學日本語文學系副教授

中文摘要

本論文以為台灣學習者所編撰之『在台灣學初級日語』為例，探討日語閱讀教材製作之理論與實踐。編撰日語教育的教材時，應考量學習目標、學習時間、學習階段、教學項目、基本語詞、提出順序、表記、中日兩語對比研究成果等要素。閱讀教材與會話教材不同，其內容應以敘述文為主。此外，補助教材、各階段之直的聯繫等也應該加以考量。

關鍵詞：日語教育、教科書、閱讀指導、中日語對比研究、教學項目、提出語詞、表記

日本語教育における読解教材の開発

——『台湾で学ぶ初級日本語』を例として——

頼 錦 雀

東呉大学日本語文学系副教授

要 旨

本稿は日本語教育における教科書論の論文である。台湾学習者のために編纂された『台湾で学ぶ初級日本語』を例として、読解指導用初級教科書作成の理論と実践について論じたものである。日本語教育用教科書の作成には、学習目標、学習時間、学習段階、教授項目、基本語彙、提出順、表記、日中両国語対照研究の成果などの要素を考慮に入れるべきである。そして、読解指導用の教材は会話の教材と違って、叙述文の読解を中心にするのが望ましい。なお、補助教材や上の段階への繋がりも考えなければならない。

キーワード：日本語教育、教科書、読解指導、対照研究、提出項目、提出単語

The Development of Japanese Reading Textbooks

Lai, Jiin-Chiueh

Associate Prof. of Japanese Language and Culture

Soochow University

Abstract

This paper is a report of the development of Japanese reading textbooks. “Learning elementary Japanese at Taiwan” is a reading textbook for Taiwanese. Through the introduction of “Learning elementary Japanese at Taiwan”, we can understand the theory and practice of the development of Japanese reading textbooks. To develop a text of Japanese at Taiwan, we should pay attention to the purpose, objective, learning hours, stage, item, basic vocabulary, notation, etc. As a reading textbook, it is desirable to train reading comprehension. And, it is necessary to think about connection with next stage.

Key words : teaching Japanese as a foreign language, text, reading, basic vocabulary, notation

日本語教育における読解教材の開発

——『台湾で学ぶ初級日本語』を例として——*

頼 錦 雀

東呉大学日本語文学系副教授

1. はじめに

本稿は学習者の拠り所である規範を立てる教科書に関するものであるが、研究領域としては日本語教育学の教科書論の分野に入るものである。ここでは、日本語教育における教科書の位置付けや教科書のあるべき姿について考えてみたい。

1.1 日本語教育における教科書の位置付け

「教科書はなくても授業はできる。よい教師がいてよい学生がいれば授業はりっぱに成り立つ」¹といわれるが、台湾日本語教育の環境から考えてみれば、日本語教育にはやはり教科書が必要品だと思う。確かに、筆者が大学の日本語学科に入る、27年前に比べれば、今日の台湾では、家にいても日本語のテレビ番組が見られるし、インターネットではいくらでも日本語の資料が利用できる。そして、街角の看板や台湾のテレビのコマーシャルに日本語が頻繁に登場していて、台湾語や台湾国語に

* 本稿は1999年8月5日に日本財団法人交流協会・杏林大学共催の「1999年度台湾人日本語教師日本研修研究発表会」で「『台湾で学ぶ初級日本語』について」という題で口頭発表したものを骨子としてまとめられたものである。

1. 斎藤（1986）2頁

における日本語の受容現象も増えてきた。言い換えれば、台湾の学習者が日常生活で日本語に接するチャンスが多くなったわけである。しかし、日本語学習者のことを考えてみれば、台湾における日本語環境はまだまだ不足している事は事実である。特に、日本語使用の場の角度からみれば、台湾人学習者は教室を一步出れば、日本語を使う場面にあまり恵まれていないのである。それを補うために、教科書が重要な役割を果たすわけである。手元に教科書があることによって、学習者はあらかじめ教育の到達目標が分かり、予習することができ、そして、教室で勉強したものを課外時間に復習したり、確認したりすることによって、学習項目が定着するようになることが図られる。そうすると、期待感と安心感が生れ、学習意欲が高まると思われる。要するに、台湾日本語教育において、教科書が必要なものである。

1.2 教科書のあるべき姿

教材の研究と開発は日本語教育学の研究課題の一つである。特に現在、台湾の各日本語教育機関で使用されている教科書の多くが日本で研修したり進学したりする学習者のために編纂されたものであるのを見ると、教科書論的研究の重要性を痛感せざるを得ない。というのは、学習者のニーズや教科の目的、到達目標、学習環境、教授法などによって、教科書に対する要求が違うからである。理想の教科書は「あるコースの目的と条件に合った」²ものでなければならない。また、できれば自分が教えるコースのために、国際化、かつ本土化を目指した教科書を自分で作るのが望ましい。本土化といえは、目的や対象を問わず、日本で編纂された教科書に中国語訳をつければ、中国人向きのものになる、と確信する台湾の出版社や日本語教師がいるようであるが、これは本当の本土化とは言えないと思われる。台湾日本語教育の場合は、学習者と教授者の経験を合せ持つ台湾人教師が自分の担当する教科の教科書を編纂するのが理想的である。

2. 同注1、3頁

1.3 読解指導用の教材を考える

筆者の勤務先である台湾東呉大学日本語学科は分科教育を施す機関で、日本語の読む・書く・話す・聞く・訳するという五技能の訓練を行うのが教育目標である。そのうち、「初級日本語」「中級日本語」「高級日本語」という科目があるが、それは普通でいう初級日本語、中級日本語、上級日本語という段階別に用いられる名前とは違うものである。詳しくいえば、話し方指導のための「日本語会話」、聴解指導のための「日本語練習」、作文指導のための「日文習作」、翻訳指導のための「日本語翻訳」に対して、「初級日本語」「中級日本語」「高級日本語」は読解力を養成するための読解指導の教科である。分科教育における読解指導の教科なので、その目的や目標などは勿論総合教育のそれとは違うはずである。そして、台湾の大学の日本語学科の学習者のニーズは、非専攻の学習者や日本にいる学習者などのニーズとは一致しないと思う。しかし、事実としては、読解指導の教科を担当する台湾日本語教育に携わっている教師で、自分で学習者のために編纂した教科書や読解指導のための教科書を使っているのはあまり多くないのではないと思われる。殆どが前述したように日本で編纂されたものを利用している、例えば、『日本語で学ぶ日本語 初級』（黒羽栄司 1995 大修館）、『進学する人のための日本語初級』（国際学友会日本語学校 1994）など。前者は会話文が中心になっているものであるが、後者は会話文中心の『本冊』のほかに『読み文』という分冊が付いているものである。但し、担当者に聞いてみたところでは、『進学する人のための日本語初級』を使用する際、会話文中心の『本冊』がメインテキストになっており、『読み文』は学習者に自習させるための補助教材になっている、ということもあるらしい。言い換えれば、読解指導が教育目的の教科では、授業時間に叙述文を読むチャンスがないことが予測される。

また、対象から考えてみれば、『日本語で学ぶ日本語 初級』は「日本で生活し、日本の大学教育を受けるのに十分な現代日本語の能力の達成を目標としている」³ ものであるが、『進学する人のための日本語初級』はその名前から分かるように、日本の日本語学校が日本の大学に進学する外国人学習者のために作成したものである。どちらも現代日本語能力の養成においては問題がなかろうが、台湾の大学の日本語専攻の学習者の教科書としては納得できない点が多いように思えてならない。そして、その会話文の登場人物を考察して見れば、アウン、ウィン、キム、ヘレン（『日本語で学ぶ日本語 初級』）、アリフ、アンナ、マリア、ラヒム、リサ（『進学する人のための日本語初級』）のように、台湾人学習者の馴染まない外国人名が多い。それでは、学習者中心主義が主流になっている教育観に背いているし、教育心理学的見地から考えても、学習者が疎外感のために、日本語に対する学習意欲が殺がれる恐れがあるのではなかろうか。日本で編纂されたものはいけない、というつもりはないが、分科教育なのに、その教科の教育目的を無視して、日本で出されたものであればいいというような安易な心理で総合教育のために出されたものを使っている。それは考え物である。そういう教師の心理は東呉大学だけではなく、他の大学の日本語学科でも同じではなかろうか。ちなみに、日本語学科の学生は受け身型で自主性が足りない、と他の学科の先生に言われたことがあるが、それは教科書のことから見た主体性に乏しいことに関連しているのではないかと思われる。

台湾人学習者のために編纂されたものはいくつかある、例えば、筆者が前に「初級日語」教科の教科書として長年使った『日本語讀本』（蔡茂豊 東呉大学）はその一つである。しかし、その第一冊（初級用）は文型中心によるセンテンスパタン派のもので、まとまった内容をもつ叙述文がないので、教育目標の読解指導の教材としてはふさわしくないように思われる。また、それは 20 年も前に作成されたも

3. 黒羽（1995）3 頁

のなので、古い感じがする嫌いがある。それが故に、筆者は台湾の大学生に対する読解指導のための『台湾で学ぶ日本語』を編纂する決心をした。そして、カリキュラムに合わせて、初級、中級、上級というふうに分けて教科書を作成してみた。以下、『台湾で学ぶ初級日本語』にしぼって、読解指導のための教材作成について、筆者の考え方を述べてみたい。

2. 『台湾で学ぶ初級日本語』

『台湾で学ぶ初級日本語』は、1997年に作成されたものである。そのあと、1998年に一度訂正して、その後また試用のつもりで東呉大学と静宜大学で、3年間あまり使ってきたが、未だに私家版である。というのは、できるだけ多くの学習者に使ってもらって、その反応をみて修正したいからである。以下、『台湾で学ぶ初級日本語』の紹介を通して、私なりの読解指導用教材作成の理想について、述べたいものである。

2.1 編集方針と構成

2.1.1 読解指導の教育目標

日本語教育における読解指導の教育目標か学習目標は次のようにまとめられる⁴。

(1) 読み終わると同時に完全に理解できること。(2) 個々の短文の理解のみではなく、文章全体の意味を把握できること。(3) 知らない語句を自分で辞書を引いて、文を理解する自律的学習能力を持つこと。(4) 読み終わった文章の内容を要約する能力を持つこと。

この目標により、筆者は『台湾で学ぶ初級日本語』の編集方針と構成を次のよう

4. 木村(1982)114頁参照。

に組み立てた。

2.1.2 編集方針と構成

『台湾で学ぶ初級日本語』は台湾の大学で日本語を専攻として勉強する初心者のために編纂された、読解指導用の教科書である。使用時間は筆者の勤務校である東呉大学の年間授業時間数に合わせて 130 時間とする（普通、大学の「初級日語」教科の授業時間は 4 時間×32 週間＝128 時間である）。構成は 34 課あるが、第 1 課は「日本語の発音」、第 2 課は「日本語の文字」である。第 3～6 課の各課は〔本文〕と〔練習〕の 2 つの部分からなっているが、第 7 課からは〔練習〕の部に〔問いと答え〕の部分を加えた。シラバスとしては、構文シラバスと話題シラバスを組み合わせた複合シラバスを取っている。〔本文〕の部分は、基本語彙と基本文型で台湾の大学生の身近にある話題を取り上げ、短い叙述文の形で日本語の基本表現を紹介するものである。会話文をあまり取りあげなかったのは、学習者は別にある会話の授業でそれに触れることになっているからである。「練習」の部分は文型中心の言い方の練習が主であるが、関連語の提出項目もある。「問いと答え」の部分は確認の効果が期待される部分であるが、質問文があまり出ない本文の欠点を補うことを狙っているものでもある。学習者はこの教科書で勉強すれば、日本語の基本語彙や基本文型を身に付けられるだけでなく、何かのトピックについて述べる能力を養成することもできる。また、初心者のことを考えて、副教材として〔本文〕の「録音テープ」を作った。

2.2 トピック

『台湾で学ぶ初級日本語』の本文は次のような内容からなっている。

1 日本語の発音	2 日本語の文字	3 挨拶（一）	4 大学生
5 家族	6 携帯電話	7 私の部屋	8 文房具
9 ペット	10 朝食	11 四季	12 休日
13 買物	14 誕生日	15 雨の日	16 通学
17 図書館	18 テスト	19 挨拶（二）	20 姉からの手紙
21 友達の下宿	22 ピクニックの用意		23 病気
24 短期留学	25 食事	26 送別会	27 看病
28 レポート	29 泥棒	30 イチゴ狩り	31 いじめ
32 お見舞い	33 喧嘩	34 夏休みの計画	

読解の教材であるが、初心者が使うものなので、最初に発音、文字と挨拶を取り上げた。第1課は発音指導で、第2課は文字指導である。日本語専攻の学習者なので、普通取り上げられない「ゐ」「ゑ」や外来語用の「イエ ウィ シェ ツィ」なども紹介する。第3課は日常生活でよく使われる挨拶である。第4課からは、学習者が日本語で自分のこと、台湾のことを表現できるようなことを目指して、大学生の身近なトピックを提出する。台湾の大学のスケジュールなどを考慮に入れながら、簡単な文型から難しい文型へという規則で日本語の常用表現を提出する。但し、第32課は（敬語のための）手紙文である。文の長さにおいては、1行の字数は30字あるが、2行以上にならないように工夫した。文章の長さは1ページ30字×13行の2ページ以内のものである。ちなみに、文体においては、第32課までは「です・ます」の丁寧体を取っているが、最後の第33、34課は中級への繋がりを計って、常体の表現にした。

2.3 文法事項

『台湾で学ぶ初級日本語』における文法事項は提出順によって羅列すると次のよ

うである（但し、第3課「挨拶」を除く。Nは名詞、Aは形容詞語幹、AV は形容動詞語幹、Vは動詞の活用形を表わす）。

第4課 N1 はN2 です。N3 もN2 です。N1 はN2 ではありません。

N1 もN2 もN3 です。N1 のN2 。N1 とN2 。

N1 はN2 で、N3 はN4 です。N1 はN2 ですか。

第5課 これはNです。今年、～歳です。

第6課 Nのです。AいNです。NはAいです。Aくないです。

N1 はN2 よりAいです。NはAくて、Aいです。

第7課 ここはNです。Nは（場所）にあります／ありません。

Nは（場所）にいます／いません。（場所）にNがあります。

N1 やN2 ……など。NはAVです。AV1 でAV2 です。こんなN。

N1 はN2 が好きです。（疑問詞）が～。

第8課 （人）はNがあります。いろいろなN。まず～、それから～、そして、

～。Nは（数詞・助数詞）あります。（場所）にあるN1 。（場所）でNを買います。

第9課 A1 いのは（数詞・助数詞）、A2 いのは（数詞・助数詞）います。

AVなN。A1 いA2 いN。Nが欲しいです。

第10課 N1 は（場所）でN2 をVます／ません。（数詞・助数詞）Vます。

（帰着点）にNをVます。何もVません。どちらが好きですか。

N1 よりN2 のほうが好きです。N1 はN2 で大変です。

第11課 ～月。N1 、N2 、N3 はN4 です。（時間）にNがVます。多いで

す。（時間）からN2 がVます。（場所）で一番AいN2 。（場所）

へVます。（場所1 ）か（場所2 ）へVます。（場所）ではNが盛んです。Nはどうでしょうか。

第12課 ～曜日。（時間1 ）から（時間2 ）まで。～時間ぐらい。～時ごろ。

あまり AV ではありません。Nの後。自分で～。NほどAくないです／
ありません。（原因）でVます／ません／ました／ませんでした。少し
／ゆっくりVます。（相手）にNをVます。

第 13 課 （数量）で～円です。N1 を（数詞・助数詞）、N2 を（数詞・助数
詞）Vま す。N1 を（数詞・助数詞）とN2 を（数詞・助数詞）V
ます。～しかVません。

第 14 課 ～日。～日間。Nになりました。Vたいです。Nと一緒にVます。A
そうです。A1 そうですが、A2 そうです。NでVましょう。Vつも
りです。N1 にN2 をあげます。AVでした。AVではありませんでし
た。Aかったです。Aくなかったです／ありませんでした。V前に。

第 15 課 Vています／いません。AそうなN。VてAそうです。Vのは AV で
す。N1 はN2 が上手になりました。Nができます。V1 て、……V
nています。V1 ながらV2 。AそうにVます。（道具）でVます。
AVでVます。あっ、～。Vそうです。

第 16 課 （場所）にVています。VN。VているN。V1 てV2 。V1 から
V2 。VたN。A2 そうなN。Vたことがあります／ありません。V
たばかりです。

第 17 課 Vましたが、～。それで～。Vてください。Vないでください。すみ
ませんが、～か、Vてください。Nにお願いしました。あもう、Vま
すが……。～ね。～Vたら～。～から。～までにV。

第 18 課 （相手）とVないでください。（時間）までです。N1 にN2 をVて
ください。Vてもいいです。Vなければなりません。Vてはいけませ
ん。Vたら～。

第 19 課 「……」と言います／聞きます。「……」と言ってVます。
（言語）ではN1 はN2 と言います。～時（には）、と言ってからV

ます。Vたら、「……」と言います。Nほど～ません。N1 はN2 に当たります。

第 20 課 (相手) からのN。(相手) へのN。(相手) からNが来ました。Vで嬉しいです。(目的地) に行っています／来ています。N1 というN2。Vたがっています。N1 にN2。Aでしょう。Vでしょう。Nは～と言っています。多分～でしょう。

第 21 課 Vてあります。～が、～。いくつかあります。AV そうにV。AV だと言いました。～というNが聞こえます。Vが見えます。私はNが羨ましいです。というのは～からです。

第 22 課 Nのために～。Vておきます。Vていきます。～かもしれません。Nは(結果)にします。N1 はN2 に、N3 はN4 にVてあります。Vてきます。Vましょう。

第 23 課 (V/Aい) し、～。 (用言) と～。～気味です。～に悪い。Vてしまいます。Vことになります。Vやすいです。Aから～。～だけではなく、～。Vことがあります。Vべきです。

第 24 課 V予定です。うちのN。(時間) ほど。Vう／ようと思っています／考えています。AV だとは言えません。Vようになりたいです。～間に～。 (用言基本形) そうです。～と同じです／違っています／似ています。

第 25 課 (時間) に(数詞・助数詞) V。VてV。N1 もあればN2 もあります。N1 はN2 に人気があります。どれも～。V1 こともありますが、V2 こともあります。Vから、～。 (人) にとって～。何かV。なくてはならないN。Vた方がいいです。～ように気をつける。N1 の(用言) N2。Vない方がいいです。

第 26 課 Vので～。N1 はN2 とN3 になりました。よくV。V1 たりV2 た

ります。ところが、～。Aいので～。AVなので～。

第 27 課 自分でも～。～のに～。毎～のように～。～たら～。

(相手) にすまないと思います。Vてくれます。～ように、～。

Vてもらいます。Vば～。

第 28 課 Nについて～。初めてのN。～か、分かりません。Vてくださいます。

Vていただきます。Vようになります。Vてやります。Vてあげます。

第 29 課 Vれる／られる〔受け身〕。～らしいです。急いで～。～のです。

N1 にはN2 が分かりません。Vそうもないです。

第 30 課 Vれる／られる〔可能・自発〕。V命令形。Vことができます。

～N1 もあれば、～N2 もあります。NまでV。Vてほしいです。

N1 はN2 が得意です。A過ぎる。

第 31 課 Vせる／させる。～。すると、～。～とは～のことでしょう。～よう

です。～。一方、～。～には～が必要だと思います。

第 32 課 お／ごN。おVします。Vれる／られる〔尊敬〕。Nでございます。

おV致します。～申し上げます。Vております。(相手) にはいかが

お過ごしでしょうか。～を伺いました。～にはびっくりしました／驚

きました。～によると、～。一日も早い～を心よりお祈り致します。

できる限り～。まずは、～。

第 33 課 Vせ／させられる。Vた。Aがられる。無断で～。Vな! (擬声語)

とV。～と、決まって～。～だろう。Vたがついる。Vまい。Vてい

いことと悪いこと。一日も早く～。Vたいものだ。

第 34 課 Nなので～。Nで～。Nに(数詞)もV。Vう／よう。Vう／ように

思っても～。AV だった。Aくてならない。できれば～。Vてみる。

Vてみたいものだ。～こともあろうが～。 (時間名詞) 近く。進んで～。

以上の文型を見て分かるように、『台湾で学ぶ初級日本語』で勉強すれば、日本

語の常用表現に用いられる文法事項を習得することができるはずである。そして、意味分類から見れば、『台湾で学ぶ初級日本語』に提出された表現には、次のようなものがある。(1) 名詞：人・物・事 (2) 指示：こそあど系統 (3) 存在・有無：いる、ある (4) 理由・原因：で、て、から、ので、ため、ですから (5) 逆接：が、のに (6) 時間：年・月・日・季節・時・分・～間・曜日・～から～まで・後・前 (7) 比較：どちらが～・どれも～・一番・より・～のほうが～ (8) 程度：ほど・ばかり・ぐらい (9) 希望（たい・～がほしい・てほしい・てみたいものだ (10) 変化：なる (11) 経験：～たことがある (12) 義務：なければならない・なくてはいけない・べき (13) 依頼・要求：てください・ないてください (14) 伝聞：そうだ・～という (15) 根拠：～によると (16) 推量：でしょう・かもしれない・だろう・～う／よう (17) 様態：そうだ (18) 状態（てある・ている・ておく (19) 可能・不可能：聞こえる・見える・できる・～ことができる・～れる／られる (20) 提案：どうですか・いかがでしょうか・～方がいい (21) 忠告：～ない方がいい・ないようにする (22) 意志：～う／ようと思っている／考えている・～つもりだ (23) 期待外れ：てしまう (24) 仮定：たら・ば・と (25) 勧誘：～ましようか／～ませんか (26) 伝言：～と言ってください (27) 定義：～という・～というのは～ (28) 試行：てみる・てみたい (29) 予想：らしい・そうだ・ようだ (30) 決定：～にする・～ようにV (31) 条件：たら・なら・ば・と (32) 傾向：～気味だ (33) 準備：ておく (34) 授受：やる／あげる／さしあげる・くれる／くださる・もらう／いただく・てやる／あげる・てくれる／くださる・てもらう／いただく (35) 範囲：で・～から～まで (36) 限定：～だけではない・できる限り (37) 経過：てから・後・前・ながら・～たり～たりする (38) 禁止：てはてけない・だめだ・な (39) 受身：～れる／られる (40) 自発：～れる／られる (41) 敬語：～れる／られる・おる・お～・ご～・お～する・お～致す (42) 使役：～せる／させる (43) 使役の受身：～せ／させられる (44) 並列：も・て・が・ば・し・ながら・たり (45) 接続：て、それから、そして、それで。

学習者が各文法事項の表現意図を十分に吟味し、それを身に付けて日本語の基本表現を習得することが期待される。

2.4 表記

2.4.1 縦書き・横書き

日本社会において現行日本語の表記が縦書きと横書きの両用であるので、『台湾で学ぶ初級日本語』は、[本文]の部分は縦書きにして、[練習]と[問いと答え]の部分は横書きにした。このような工夫で、学習者が縦書きにも横書きにも馴染むようになることが期待される。

2.4.2 提出漢字

漢字については、台湾人学習者の漢字力を日本語学習に生かすために、『台湾で学ぶ初級日本語』は第1課から漢字を導入することにした。そして、台湾人学習者の負担になるような漢字の読み方の習得を図って、漢字にはふりがなを付け、また1981年10月に告示された「常用漢字表」に拘らないで「表外漢字」をも採用した、例えば、「拗」（「拗音」）、「幌」（「札幌」）「臍」「髭」「膝」「謬」（「誤謬」）「亀」など⁵。提出漢字数は1015字あり、非漢字圏の学習者を意識して漢字を少しずつ提出するような、日本で編纂された初級日本語教科書と随分違っている（次頁の表1を参照されたい）が、漢字に対して親しみを持っている台湾人の大学生が対象であるから、漢字表記のある単語を全部漢字で提出するように、意識的に漢字を大量に導入したのである。そのうち、台湾で使われている繁体字にな

5. ワープロなどに搭載されているJIS漢字は、第一水準、第二水準合わせて6355字あり、常用漢字表に掲げる1945字の3倍強になっている。また、常用漢字表制定時の予想を超えるワープロなどの急速な普及によって、表外漢字が簡単に打ち出せるため、1997年に、鷗、瀆などの表外漢字が使われるようになった。

い漢字は 129 字で、全体の 12.71 %を占めている（表 2 を参照されたい）⁶。筆者の学習体験と教授体験から見れば、台湾の成人学習者にとって、漢字表記はあまり学習の負担にならないと思われる。

表 1 初級日本語教科書における漢字

初級日本語教科書	漢字字数
日本語初歩（国際交流基金）	380
外国学生用日本語教科書（早稲田大学語研）	759
日本語 I（東京外大付属日本語学校）	350
台湾で学ぶ初級日本語（頼錦雀）	1015

表 2 『台湾で学ぶ初級日本語』における、台湾の繁体字にない漢字

練	仮	湾	国	札	幌	点	数	学	黒	難	経	济	竜	机	辻	働	会
発	鉄	弁	当	奥	塩	寿	蛸	窓	伝	価	楽	雑	帯	姉	氷	層	拶
帰	気	様	礼	専	頼	営	称	児	博	写	歳	両	嬢	軽	万	壳	産
舍	筆	筍	辞	灰	狭	図	蚩	鉄	亀	将	画	変	昼	桜	咲	贈	観
曜	読	継	濯	寝	遅	円	諺	齒	脈	刺	転	験	覚	単	絵	乗	歩
悪	戾	録	続	呉	困	参	区	訳	実	博	残	弾	楼	菓	届	飲	壊
断	剂	痒	縄	旧	栄	検	碁	応	畑	捨	劳	渴	顔	沢	匂	勧	殴
厳	独	拝															

第 1 課から意識的に漢字を提出したのは、学習者の漢字に対する親しみを利用して日本語に対する学習意欲を引き起こすためであるが、最初から台湾人学習者に馴染みのない漢字を遠慮なく導入したのは、台湾で使われている中国語の漢字と日本

6. 日本の常用漢字と台湾で使われている国字の字形の比較について詳しくは、頼（1981）を参照されたい。

語の漢字との違いを提示する狙いである。日本語の発音、文字、挨拶を紹介した後、第4課から正式の漢字指導に入るのである。そして、漢字指導においては、字形の外に、台湾人学習者が苦手である読み方に留意すべきだという考慮で、ルビを付けた。

2.5 提出語彙

『台湾で学ぶ初級日本語』の提出語彙では、まず、文字指導のための提出語について述べた後、名詞、動詞、形容詞、形容動詞の項目を取り上げて説明したい。

2.5.1 文字指導のための提出語

『台湾で学ぶ初級日本語』では第2課から単語を大量に提出した。それは、文字の導入を、意味を持つ単語の形で提出してこそ、有意義だと思うからである。漢字、平仮名、片仮名、ローマ字、アラビア数字、漢数字を紹介するものなので、語彙量の比重が大きい。しかし、文字の紹介が主な目的なので、単語の記憶よりも、各文字の習得にポイントを置くべきである。なお、文字の紹介のために提出された単語については、次のようなことがまとめられる。

- (1) 「台湾」「中国」「韓国」などのように、表記手段として漢字を用いる、台湾人学習者の馴染みの深い地名を挙げて、それが一般的に日本の漢字の読み方に準ずることを提示する。
- (2) 「日本」「東京」「札幌」など、比較的台湾人学習者に知られている日本の地名を挙げる。
- (3) 「香港（ホンコン）」のような漢字圏の地名でも、世界で一般に通用している呼び方もしくはその国の発音に近い音を片仮名で漢字に当てる。
- (4) 「大学」「黒板」「経済」「点数」「机」など学校生活に関係のある語を挙げて、その漢字表記が台湾の繁体字と異なることを紹介する。

- (5) 「辻」「働く」など、いわゆる日本の国字を提出して、新しく覚える必要があることを提示する。
- (6) 日本語におけるローマ字は、「JAL」「JR」「PHS」のように、英語でなる一連の語のそれぞれの頭文字を取ったものもあるが、「NHK」のように、日本語の単語でなる一連の語のローマ字表記の頭文字を取ったものもある。
- (7) 「Tシャツ」「OA機器」などはローマ字と片仮名語か漢字との混種語で、台湾人学習者にとって馴染みの深いものを挙げて、最初から紹介する。
- (8) 前述したように現行日本語表記は縦書きと横書きの両用なので、数字の部分は横書きのためのアラビア数字も縦書きのための漢数字も紹介した。
- (9) 文字の紹介を単語で提出するので、学習者の負担にならないように、できるだけ4音節以下のものを提出した。そして、使用頻度の高い身体語を提出するほか、第3課以降に登場する語を大量に提出した。
- (10) [練習]の部分に提出された漢字表記語や片仮名語も、第3課以降に登場する語が多い。
- (11) 拗音の「みゅ」は片仮名語以外にそれを含む単語がないので、単語による平仮名練習の部分は省いた。

2.5.2 名詞

『台湾で学ぶ初級日本語』は構文シラバスと話題シラバスを組み合わせたものなので、その提出語彙にばらつきがあるのは当然である。例えば、提出された名詞の数（片仮名語と人名を除く）は次のように一定していない（表3参照）。

表3 『台湾で学ぶ初級日本語』における新出名詞数

課 別	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	計
名詞数	19	79	95	47	68	46	35	56	68	43	45	36	25	28	23	38	1272
課 別	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	
名詞数	16	72	32	43	40	33	58	35	14	26	20	39	23	32	18	20	

名詞の提出にばらつきが見られるのは、各課の話題及び提出文型に大きく関連している。例えば、第3課から第13課までの名詞が全体の2分の1（601/1272語）を占めているのは、名詞文型の練習が中心になっているからである。第20課は日本関係の内容なので、新出語が多い。そして、提出された名詞が20語以下になっているのは第3、19、27、33課の4課である。第3課と第19課は挨拶用語で、決まり切った言い方をするものが多く、代入できる語に制限があるので、提出された名詞が少ない。それは、文型に入り換えて練習するために名詞を多く導入した第4、5課とはだいぶ違う。第27課は「看病」という話題の設定で授受補助動詞「～てくれる」などの導入であるが、第23課にすでに病気にまつわる語がいくつか提出されているので、新出名詞がわりと少ない。第33課は動詞の使役形、過去形などの変化の練習なので、新出名詞が少ない。

全体的に言えば、学習段階が進むにつれて、新出名詞が少なくなっている傾向が見られる。このような提出は一見、初心者にとって負担が大きいと批判されるかもしれないが、思考力豊かな大人学習者で早い時期から表現の幅が広がるという点で、続けて勉強していきたい、という意欲を引き起こすことになり、効果的だと思われる。

次は、片仮名語と人名について述べる。筆者の体験から見れば、台湾人学習者には片仮名コンプレックスとも言えるような心理を抱いている学習者が少なくない。片仮名表記にあうと、思わずひやとした感じがする。『台湾で学ぶ初級日本語』

は第2課で一応片仮名を紹介したが、しかし、常用の平仮名が中心である。第4課以降は、少しずつ常用語の形で提出して片仮名を学習者に身に付けさせるように努力した。下の表4を見て分かるように、片仮名語の提出にもばらつきが見られる。それは名詞と同じように、各課の内容に関わるものである。例えば、第4課は西洋の国名の紹介があるので、10語もあった。第6課は練習にOA機器が挙げられたので17語登場した。第8課は文房具に関する内容なので、17語出た。第10課にはいろいろな飲み物が提出されたので、27語ある。第20課は衣服の名称で片仮名表記が多い。第25課は食事にまつわる内容であるが、野菜や果物の名称は片仮名表記が多いので、27語にもなった。

表4 『台湾で学ぶ初級日本語』における片仮名語

課 別	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	計
名詞数	0	19	1	17	9	17	5	27	3	5	9	4	4	5	4	1	207
課 別	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	
名詞数	3	16	10	8	3	3	27	4	0	2	0	7	0	0	2	1	

人名については、この教科書の使用環境に関係深い、台湾や日本の人に多い名字を取り入れている。学習者の身近に存在している人物の名は実際の使用頻度が高く、定着しやすい、と思われる。但し、「マリー」というような西洋人の名前や、日本に見られる「マリ」というような名前も念のために提出した。

2.5.3 動詞

第3課以降の語彙を考察してみると、『台湾で学ぶ初級日本語』に提出された動詞は全部で255語ある（表5参照）。

表5 『台湾で学ぶ初級日本語』における新出動詞

課 別	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	計
名詞数	14	0	0	0	2	1	0	5	6	14	3	7	11	18	13	18	255
課 別	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	
名詞数	5	12	6	5	8	10	2	9	7	9	13	12	15	12	5	12	

第3課は挨拶用語で、動詞は14語もあるが、それを動詞の意識で紹介するわけではない。第7～9課は存在・有無の表現で、「ある・いる」の登場である。第10課は食事関係の動詞である。第11課は季節関係のもので、「咲く・降る・贈る・迎える」が提出された。第12課は「休日」という話題で、日常生活に関する動詞が多く登場した。第12課以降に動詞数が5語以下あるのは、第13、25課である。前者は「買い物」という話題で、助数詞の新出表現がポイントになり、動詞は「寄る・注文する・合わせる」しか提出されなかった。後者は「食事」という話題を取り上げた野菜や果物の紹介のもので、動詞としてはわずかに「気を付ける」の「付ける」と「身体検査を受ける」の「受ける」しか提出されなかった。小泉保・他『日本語基本動詞用法辞典』（1989）に比べてみれば、255語のうち『日本語基本動詞用法辞典』にない動詞は、次の34語ある（表6参照）。そのうち、サ行変格動詞は18語、複合動詞は11語ある。

表6 『台湾で学ぶ初級日本語』にあつて『日本語基本動詞用法辞典』にない動詞

登録する	提出する	書き終わる	読み直す	暗記する	出発する	学ぶ
上達する	看病する	反省する	降り出す	飛び起きる	入り込む	市販する
甘過ぎる	酸っぱ過ぎる	辛過ぎる	傷付ける	いじめる	漱ぐ	
泣き出す	残業する	再発する	回復する	入院する	退院する	可愛がる
持ち出す	充実する	強める	体験する	どきどきする	儉約する	発揮する

(提出順による)

2.5.4 形容詞

この節は形容詞の提出語彙について述べる。

表 7 『台湾で学ぶ初級日本語』における新出形容詞数

課 別	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	計
名詞数	0	0	0	16	2	2	4	4	5	2	0	1	4	1	1	1	68
課 別	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	
名詞数	0	1	3	1	6	1	0	2	0	0	2	2	4	2	1	0	

この教科書に形容詞が合わせて 68 語提出されている。「大きい」などのような状態形容詞も、「痛い」のような感覚形容詞も、「羨ましい」のような感情形容詞もある。第 6 課は物の状態の表現を紹介する内容なので一気に 16 語もの形容詞が出された。第 23 課は「病気」という話題で、身体語彙に関する形容詞（例えば、弱い、痛い、だるいなど）が多くなっている。この 68 語は「肌寒い」を除いて全部筆者が選定した基本形容詞である⁷。ちなみに、日本で行われた各語彙調査における形容詞語数と比べれば、表 8 のようになる。

表 8 形容詞語数の対照表

語 彙 表	形容詞語数
『台湾で学ぶ初級日本語』	68
『現代雑誌九十種の用語用字 I』語彙表	145
『高校・中学校教科書の語彙調査』分析編 高校部	95
『高校・中学校教科書の語彙調査』分析編 中学校部	110
『日本語教育基本語彙七種比較対照表』	133
『日本語教育の基本語彙調査』語彙表	141
『日本語教育基本語彙第一次集計資料—2000 語	116

⁷ 基本形容詞について詳しくは、頼（1994）を参照されたい。

2.5.5 形容動詞

表 9 『台湾で学ぶ初級日本語』における新出形容動詞数

課 別	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	計
名詞数	14	0	0	0	2	1	0	5	6	14	3	7	11	18	13	18	255
課 別	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	
名詞数	5	12	6	5	8	10	2	9	7	9	13	12	15	12	5	12	

上の表 9 を見て分かるように、『台湾で学ぶ初級日本語』における形容動詞は僅か 37 語ある。それは初級段階で基本表現を紹介するのが基本的な仕事で、基本文型で各話題の紹介ができればすむというのである。形容動詞に関する他の紹介は中級以上の学習を待つしかない。この 37 語を羅列すると、次のようである。

表 10 『台湾で学ぶ初級日本語』における新出形容動詞

元気	静か	奇麗	好き	有名	立派	色々	大好き	鮮やか	盛ん	素敵
賑やか	上手	便利	親切	幸せ	残念	健康	自由	だめ	不完全	大事
大変	大切	簡単	不愉快		未熟	得意	嫌い	正直	敏感	必要
爽やか	腕白	馬鹿	無理	嫌						

2.6 文化事項

台湾人学習者向けの教科書だと言っても、国際化を目指して普遍性のあるものを取り入れるようにしたが、次の対照表を見て分かるように、日本事情に関するものが多い。また、日本で出版された教科書に比べて、台湾事情に関する文化事項が多いのが特徴である。それはその名が説明しているように「台湾で学ぶ日本語」だからである。

そして、大学生が対象であるので、大学文化に関するものも勿論、大きい比重

を占めている。例えば、文房具、図書館、勉強、テスト、アルバイト、乗り物、大学生のレジャーなどに関する事項が多い。

表 11 『台湾で学ぶ初級日本語』における文化事項

日本事情	日本 東京 札幌 北海道 上野公園 京都 文京区 横浜 静岡 九州 仙台 箱根 沖縄 青森 新潟
	日本人 日本語 日本製 日本事情 日本文化 日本歴史 日本文学 日本茶 日本酒 日本料理
	御茶ノ水大学 九州大学 拓殖大学 東京ディズニーランド
	NHK JAL JR
	新井 尾久 城戸 佐藤 鈴木 田中 長田 本田 山田 小林 河合 小西 西 若林 田村 原 高橋 橋本 藤原 水野 吉村 伊藤 清原 清水 古川 加藤 夏目漱石 向田邦子 司馬遼太郎 香 マリ 文子 三雄
	刺身 お酒 寿司 和食 お握り 茶碗蒸し ラーメン うどん
	お盆 風鈴 花火大会 紅葉狩り 雪 お歳暮 お中元 桜 雪祭り 七夕祭り 茶道 華道 ラベンダー 歌舞伎 将棋 浮世絵 暑中見舞い 年賀状
台湾事情	台湾 中国 台北 陽明山 西門町 大湖 宜蘭
	台湾製 台湾人 台湾語 台湾事情 台湾の歴史 東呉大学 新光摩天楼
	王 張 陳 林 頼 李 洪 范 許 葉 沈 何 呉 史 朱 羅 呂 邱 郭 謝 梅蘭 陽
	お粥 豆乳 焼餅 荔枝 竜眼 パッションフルーツ ドリアン 牛舌餅

3. 使用上の留意点

『台湾で学ぶ初級日本語』を外の教科書と比較してみると、次のような特色が見られる。

- (1) 日本語を専攻する台湾の大学生が対象である。
- (2) 現行日本語の表記を明示するため、縦書きも横書きも採用した。
- (3) 現行日本語の表記を提示するため、最初から漢字表記のある語は全部漢字表記で提出した。但し、一部既出語彙を除いて、ルビを付けた。
- (4) 台日両国の漢字の異同を明らかにするため、最初から漢字を大量に導入した。台湾本土化のために作成したものだから、台湾事情の項目が多い。
- (5) 提出語彙には名詞・動詞・形容詞・形容動詞の語数が多くなっているが、それは日本語環境に恵まれていない成人学習者のために、できるだけその必要とする表現を提供したい、という意図によるものである。特に台湾事情の項目が多いのはそのためである。逆に言えば、そういう日本で編纂された教科書にない、台湾事情に関するもので語彙量が多くなっているのである。台湾事情関係名詞を除いて、提出語のほとんどが日本語の基本語彙である。
- (6) 語彙配列では、できるだけ何度も提出するように工夫したかったが、話題の制限で一度しか提出されないことは避けられなかった。授業中、本文に提出されている単語、表現やテーマになっている話題を紹介して読解指導をすることが主な教室活動であるが、[練習]の部分を利用して練習することが望ましい。そして、[問いと答え]の部分で確認をすれば、学習者の定着度が分かるだけでなく、学習者がそれによって作文訓練・話し方

訓練もできるわけである。また、使用に当たり、外の教科との横の繋がりを重視して、その教科書に出た指導事項を考慮に入れば、もっと充実した指導になると思われる。この教科書ができて 3 年間たったが、学習者から満足していると言われている。

4. 中、上級への繋がり

中、上級に繋がるために、『台湾で学ぶ中級日本語』と『台湾で学ぶ上級日本語』が用意されている。なお、自律的学習を図るために、補助教材の読み物も用意した。

4.1 中級への繋がり

中級用読解指導のために、筆者は台湾事情と日本事情の紹介が中心になっている『台湾で学ぶ中級日本語』を作成した。学習者がこの教材を通して、日本語で現代の台湾事情を表現し、現代の日本事情を理解する方法を習得することが期待される。現代の日本事情の資料は殆ど日本国際観光振興会・産経新聞社編『Hello Japan』（1993～1997 年版）による。その目次は次の表 12 のようである。

また、授業時間以外の自律的学習のために、『産経新聞』の読者の投書や児童文学などを集めて『中級日本語読み物』を作成した。別に『産経新聞』でなくてもいいが、便宜上、筆者が購読しているものにした。要するに、生の日本語を読ませるのが目的である。作成に当たり、学習者が飽きないように、できるだけ文や文章の短い物を選定した。また、現代日本の姿を紹介し、日本の最新情報をキャッチすることによって、学習意欲を引き起こすように、時々内容の一部を更新する。1998 年版の目次は表 13 のようである。

表 12 『台湾で学ぶ中級日本語』 目次

第1課 自己紹介	第2課 私の家	第3課 下宿
第4課 コンサート	第5課 コンビニエンスストア	
第6課 一人っ子	第7課 摩天楼	第8課 台湾語
第9課 アルバイト	第10課 台北の交通	第11課 車内放送
第12課 新新人類	第13課 家族	第14課 暴走族殺人事件
第15課 台湾の若者文化と日本		第16課 アジア大会と政治
第17課 日本の国土と人口		第18課 国民生活
第19課 季節	第20課 住宅	第21課 学校教育
第22課 退勤後	第23課 新入社員の意欲	第24課 転職
第25課 レジャー	第26課 食事	第27課 春雨入りギョーザ
第28課 チンゲンサイの炒め物		第29課 自動販売機
第30課 贈物	第31課 家計	第32課 お付き合い費
第33課 スポーツ	第34課 環境運動	第35課 大学生の悩み
第36課 電子ブック		第37課 大学生とお酒
第38課 今度生まれてくるときは男？女？		第39課 親孝行
第40課 子供に尊敬される父親像		第41課 専業主婦の負担
第42課 幼児の安全		第43課 シートベルト
第44課 江戸いろはがるた		第45課 京都いろはがるた

表 13 『中級日本語読み物』（1998 年版）目次

1 留学交換制度	2 流行を追わずに 個性確立したい
3 安直な個性尊重 中身伴う教育を	4 孫を甘やかすおばあちゃん
5 真剣に見直す 家庭での教育	6 生命の大切さ 父子の会話に
7 順番守らない散髪客お断り	8 面会は病人の都合を考えて
9 相手の立場に立ち行動して	10 マニュアルを越えた接客を
11 人への心遣い 素早く実行を	12 感謝の心表す大切さを学ぶ
13 返事「うん」に非行の芽潜む	14 「財布と相談」 健全な買い方
15 もったいない」 若い人も考えて	16 スーパーでも冷房ききすぎ
17 むだになる物 買わない勇気	18 ゴミの散乱に 休み明け閉口
19 生活環境汚す空き缶の散乱	20 公園での花火 後始末して
21 田舎で悠然と暮らすも一興	22 農村での生活 厳しい現実も
23 小さなことにほのぼのの幸せ	24 88 歳で一生勉強 母が良いお手本
25 老人ホーム入居 快く納得した母	26 歩道橋の階段 改良改善求む
27 力強い生き方 雑草に学んで	28 花冷え
29 健康にも良い花見に行こう	30 陰ひなたなく「働く」姿勢で
31 子供に悪影響 信号無視の父	32 「路肩走行」は取り締まれ！
33 「優先席」	34 シートベルト着用で命拾い
35 聞きとれない車内放送不快	36 携帯電話 運転中は危険です
37 なぜ携帯電話 問題視する？	38 クラクション 回数自粛して
39 心豊かにする「風鈴」の音色	40 騒音にご用心！
41 人間のエゴと科学優先社会	42 幸せの遠因教え 少子化ストップ
43 親子近く住み 少子化解消へ	44 「保育士」名称改正の意義
45 街路名変更騒動	46 美観を守るには
47 日台交流の思わぬ壁	48 ストレス解消
49 幸福 島崎藤村	50 春をつげる鳥 宇野浩二
51 野ばら 小川未明	52 蜘蛛の糸 芥川龍之介
53 いなごの大旅行 佐藤春夫	54 一房のぶどう 有島武郎
55 注文の多い料理店 宮沢賢治	56 父の詫び状 向田邦子

4.2 上級への繋がり

語学教育では、読み、書き、話し、聞き、訳す能力がバランスよく発達するのが理想であるが、初級、中級段階では学習者の日本語への関心を深めるために、身近にある台湾事情の日本語表現や、日本事情の理解にポイントを置いて、話すことと聞くことに主力を置くのは当然である。そのときの読解教育は話すこと・聞くことの助けになるようなものだと思われる。しかし、上級段階では日本の一般的な現代文の読解能力を養成するように力を注ぐべきである。日本語の理論体系が分かるような読む力が十分でないと、本当の日本理解が難しいのである。それで、『台湾で学ぶ上級日本語』では、次の目次（表 14）を見て分かるように、一つ的话题に対する違った論点をもつものを何本か一緒に提出して、学習者に考えさせるように工夫した。

東呉大学日本語学科では、「高級日語」の教科は週に 100 分間しかないので、長い文章を選択することを控えた。できるだけ 1 回の授業時間に何か完結した勉強をしないと、達成感が味わえなくて、学習意欲が殺がれる恐れがあるのである。但し、長い文章や作品を読む訓練も必要だし、『台湾で学ぶ上級日本語』に入れなかった随筆、評論、詩歌、小説などの違った文体の認識も大切なので、『上級日本語読み物』（表 15 参照）も用意した。これは 1999 年に選定したものである。3 年間使用しているが、使用上の問題点について、今後の課題として検討していきたい。

表 14 『台湾で学ぶ上級日本語』（1999 年版）目次

- | |
|--|
| <p>1 巻頭語</p> <p>2 生きること／二十一世紀に生きる君たちへ。人生は何のために生きるのか。
身近なことから人が喜ぶことを。“同じ生命”認識できる触れ合いを。
ロボット犬飼育って気味悪い。人間は「尊厳」によって別格に。</p> <p>3 名前／陳さん林さん満天下。名前のいろいろ。呼び名の力学。
苗字から始まった「国民」の誕生。</p> |
|--|

- 4 日本語／残留日本語。親しさの証明。言葉の平板化と語尾上げ話法。後世に伝えたい漢字名の正確な読み方。日本語が起源の「中国」「中国語」。
- 5 台湾における日本／霧社事件と日本軍。命がけて台湾にダム造った八田与一。文化交流の障害。増える「哈日族」。
- 6 戦後五十年／天皇のお言葉。首相談話。
- 7 旅券／台湾への旅券遅すぎた承認。26年目の承認。26年かかった不平等是正
- 8 台湾ナウ／歴史の区切り。信号は目安。人が消えた日。
西洋流民主主義でいい のだろうか
- 9 連休／「有給休暇」の有効な活用。大切にしたい「歴史的背景」。
名実相伴った「祝日大国」に。民間に“ヒズミ”を生む祝日の増加。
- 10 カード時代／若者に正しい使い方教育を。“懐”に合わせ現金購入主義。悪質利用に対処できる万全さを。
- 11 コンビニ／24時間営業で年配にも便利。旅先の逸品に出合え土産に。
夜たむろする少年たち憂う。赤字で苦しむ店も多いはず。
官公と民が協力して地域サービスを
- 12 禁煙／進む禁煙運動。学校は職員室を全面禁煙にせよ。
- 13 流行／茶髪流行一過性ではない。若者の「同質志向」を憂う。
- 14 体験／アルバイト体験から得たもの。長安牡丹花異聞。
- 15 女性／津田梅子。美しい人。女子高生が生む社会現象。
- 16 結婚観／終着駅までの人生行路共に。魅力ない結婚人生の中間点。
東京女性白書 98。既婚男性 4 割主夫願望。
- 17 携帯電話／嫌われものの携帯電話。「携帯」で変わる世の中。
- 18 情報／自分か求める情報見極めよ。情報通信で問われる人間性。
- 19 ゴミ問題／富士山のゴミ対策を急げ。ゴミ分別にみる良識の荒廃。
- 20 ホームレス問題を考える／軽視できない迷惑な事実。
伝統的な恥の文化が衰退
- 21 環境危機／ムダにせぬ多くの死。チェルノブイリ事故 10 年に思う。
地球規模での危機管理
- 22 アイデンティティ／孤人主義。責任なき個人主義の帰結。
“日本型”温順に不信感。新しい現実、新しい日本。
アイデンティティ・ゲームの時代。

表 15 『上級日本語読み物』（1999 年版）目次

1 誤用・慣用（一姫二太郎。準備と用意）国広哲弥	
2 イメチェン／森本哲郎	3 スペイン旅情／加藤周一
4 母語と母国語／田中克彦	5 記号論への招待／池上嘉彦
6 地震、雷、火事、親爺／遠藤周作	7 貴族の愉しみ／鈴木孝夫
8 恥と笑い／星新一	9 庭に来る鳥／朝永振一郎
10 白という色／沢村貞子	11 アイザック・ニュートン／谷川俊太郎
12 花嫁／石垣りん	13 人形嫌い／吉原幸子
14 猛獣が飼いたい／森茉莉	15 ああ、西洋、人情うすき紙風船／岸恵子
16 年中行事から見た家族／井上忠司	17 サラリーマン訓／花田清輝
18 良識派／安部公房	19 手が考えて作る／秋岡芳夫
20 もしかして／三善晃	21 日本人の悲劇／金子光晴
22 考へるヒント／小林秀雄	23 タテ社会の人間関係／中根千枝
24 日本人の意識構造／会田雄次	25 文芸の社会学／加藤秀俊
26 不健康のままで生きさせてよ／森毅	27 食物連鎖の根本／中村浩
28 詩歌	29 道／井上靖
30 台湾慕情／邱永漢	31 損する／五木寛之
32 トロッコ／芥川龍之介	33 夏の花／原 民喜

5. おわりに

『台湾で学ぶ初級日本語』を作成してもう 5 年間経った。東呉大学と静宜大学の二大学だけで使われているので、広範的な意見交流ができなかったが、但し、学習者の生活に関する表現が中心なので、学習者からのフィードバックでは、あまり不

満はなさそうである。これからはできれば多くの先生に使っていただき、意見交換して改善していきたいと思う。また、東呉大学では 4 年次に名著選読という科目があるが、読解訓練においては、それを上級日本語の繋がりの「超級日本語」⁸ とすることが考えられよう。そして、その教科書を作成するのも急務であるが、今後の課題にしたいものである。

参考文献

- 岡崎敏雄『日本語教育の教材』アルク、1989。
- 鎌田修、川口義一、鈴木睦『日本語教授法ワークショップ』凡人社、1986。
- 川瀬生郎『日本語教育学序説』近代文芸社、2001。
- 北條淳子「『外国学生用日本語教科書初級』における漢字の選択」『講座日本語教育 第十二分冊』早稲田大学語研、1976。
- 木村宗男『日本語教授法一研究と実践』凡人社、1982。
- 小泉 保・他『日本語基本動詞用法辞典』大修館、1989。
- 国際学友会日本語学校『進学する人のための日本語初級』国際学友会、1994。
- 国立国語研究所『日本語教育基本語彙七種比較対照表』大蔵省、1982。
- 国立国語研究所『現代雑誌九十種の用語用字Ⅰ』（4 版）秀英出版、1983。
- 国立国語研究所『日本語教育の基本語彙調査』秀英出版、1984。
- 国立国語研究所『高校 中学校教科書の語彙調査 分析編』秀英出版、1989。
- 黒羽栄司『日本語で学ぶ日本語 初級』大修館、1995。

8. 日本語教育では普通、初級、中級、上級の三段階に分けられるが、ここでは評価を初級、中級、上級、超級の四つに分けられる OPI (Oral Proficiency Interview) に倣って、本学 4 年次の名著選読を読解訓練のための超級日本語にする。OPI について詳しくは、鎌田 (1996) を参照されたい。

斎藤修一「教科書論」『日本語教育』59号、日本語教育学会、1986。

蔡茂豊『日本語讀本』東吳大学日本文化研究所、1983。

第21期国語審議会「新しい時代に応じた国語施策について」文化庁、1998。

田中 望『日本語教育の方法』大修館、1988。

中西家栄子他『日本語教授法③実践日本語教授法』バベル・プレス、1991。

賴錦雀「中日両語常用漢字字体の対照比較」『東吳日本語教育學報』第6期、東吳大學、1981。

賴錦雀「日本語教育における基本形容詞—台湾の場合」

『台湾日本語教育論文集第二号』中華民國日本語教育學會、1994。